

平成 31 年 2 月 17 日 (日) 施行

第 193 回 全経簿記能力検定試験 1 級 原価計算・工業簿記 解説

第 1 問

1. 原価計算基準 第一章 二 原価計算制度
2. 原価計算基準 第二章 一〇 費目別計算における原価要素の分類
3. 原価計算基準 第二章 二八 副産物等の処理と評価
二九 連産品の計算

第 2 問

1. 実際消費額は $¥1,380 \times 2,500 \text{ kg} = ¥3,450,000$
 予定消費額 - 実際消費額 = $¥3,625,000 - ¥3,450,000 = ¥175,000$ 有利差異
2. 作業くず評価額 ¥28,000 を製造原価より控除する。
3. 予定消費額 - 実際消費額 = $¥5,234,000 - ¥5,273,000 = (\Delta) ¥39,000$ (不利差異)
4. 工場建物の減価償却費 ¥700,000 は工場勘定で処理する。
5. $¥4,160,000 \times 55\% = ¥2,288,000 \Rightarrow$ A 組仕掛品
 $¥4,160,000 \times 45\% = ¥1,872,000 \Rightarrow$ B 組仕掛品
6. 値引の処理

第 3 問

直接材料費、直接労務費の発生額

		材 料		
月初棚卸高	¥784,000	¥2,168,000		
当月購入高	¥2,346,000			
		¥962,000		当月消費高
				月末棚卸高

当月の実際消費高は $¥784,000 + ¥2,346,000 - ¥962,000 = ¥2,168,000$

		賃金給料		
当月総支給額	¥2,246,000	¥2,297,000		
当月末未払額	¥482,000			
		¥431,000		前月末未払額
				当月消費高

当月の実際消費高は $¥2,246,000 + ¥482,000 - ¥431,000 = ¥2,297,000$

仕掛品

0 (0)	5,600 (5,600)
6,000 (5,800)	400 (200)

仕掛品

月初仕掛品 (標準原価) ¥0	完成品 (標準原価) ¥1,350×5,600 個 = ¥7,560,000
当月投入 (実際原価) 材 料 ¥2,168,000 賃金給料 ¥2,297,000 製造間接費 <u>¥3,491,000</u> ¥7,956,000	月末仕掛品 (標準原価) 材 料 ¥360×400 個 = ¥144,000 賃金給料 ¥390×200 個 = ¥78,000 製造間接費 ¥600×200 個 = <u>¥120,000</u> ¥342,000
	原価差異 ¥54,000 (貸借差額)

第4問

(1) 素材と工場消耗品の購入

(借) 素 材	976,000	(貸) 買 掛 金	1,264,000
工場消耗品	288,000		

(2) 素材の消費

予定価格は¥600/kgより、製造指図書及び製造間接費に以下のとおり配賦する。

#104	#201	#202	#203	間接材料費	合 計
¥216,000	¥324,000	¥270,000	¥198,000	¥72,000	¥1,080,000

→ 原価計算表「直接材料費」

(借) 仕 掛 品	1,008,000	(貸) 素 材	1,080,000
製造間接費	72,000		

(3) 棚卸減耗費

資材の実際消費量は1,800 kgより

月末帳簿棚卸数量は 400 kg + 1,600 kg - 1,800 kg = 200 kg

また、先入先出法より、月末素材の単価は ¥976,000 / 1,600 kg = @ ¥610

帳簿棚卸高は ¥610 × 200 kg = ¥122,000

実地棚卸高は ¥120,600 より、棚卸減耗費は ¥122,000 - ¥120,600 = ¥1,400

棚卸減耗費は製造間接費へ

(借) 製造間接費	1,400	(貸) 素 材	1,400
-----------	-------	---------	-------

(4) 材料消費価格差異の計上

		素 材		
月初棚卸高	¥248,000	¥1,008,000		直接材料費
			¥72,000	間接材料費
当月仕入	¥976,000		¥22,000	消費価格差異
			¥1,400	棚卸減耗
			¥120,600	月末棚卸高

貸借差額より材料消費価格差異は¥22,000

(借) 材料消費価格差異	22,000	(貸) 素 材	22,000
--------------	--------	---------	--------

(5) 工場消耗品の振替え

		工場消耗品		
前月繰越	¥54,000	¥303,600		→ 製造間接費
当月仕入	¥288,000		¥38,400	次月繰越

実際消費高は

$$¥54,000 + ¥288,000 - ¥38,400 = ¥303,600$$

(借) 製造間接費	303,600	(貸) 工場消耗品	303,600
-----------	---------	-----------	---------

(6) 直接工の賃金消費

予定賃率は¥1,100/時間より、製造指図書及び製造間接費に以下のとおり配賦する。

#104	#201	#202	#203	間接労務費	合 計
¥462,000	¥704,000	¥594,000	¥253,000	¥407,000	¥2,420,000

→ 原価計算表「直接労務費」

(借) 仕掛品	2,013,000	(貸) 賃金給料	2,420,000
製造間接費	407,000		

(7) 賃率差異の計上

		賃金給料 (直接工)		
		¥420,000		月初未払高
当月支払高	¥2,434,300	¥2,013,000		直接作業分
		¥407,000		間接作業分
月末未払高	¥416,500	¥10,800		賃率差異

貸借差額より、賃率差異は¥10,800

(借) 賃率差異	10,800	(貸) 賃金給料	10,800
----------	--------	----------	--------

(8) 間接工の賃金消費

		賃金給料 (間接工)			
当月支払高	¥412,100	¥183,000		月初未払高	
月末未払高	¥196,100	¥425,200		実際消費高	

実際消費高は

$$¥412,100 + ¥196,100 - ¥183,000 = ¥425,200$$

(借) 製造間接費	425,200	(貸) 賃金給料	425,200
-----------	---------	----------	---------

→ 原価計算表「直接経費」#201

(9) 外注加工賃

(借) 仕掛品	150,000	(貸) 外注加工賃	150,000
---------	---------	-----------	---------

(10) その他の経費の支払い

(借) 製造間接費	438,000	(貸) 現金	438,000
-----------	---------	--------	---------

(11) 減価償却費の製造間接費への計上

(借) 製造間接費	300,000	(貸) 減価償却累計額	300,000
-----------	---------	-------------	---------

(12) 製造部門費の製造指図書への配賦

予定配賦率は第1製造部門費¥1,240、第2製造部門費¥1,560より、機械運転時間をもとに配賦

	#104	#201	#202	#203	合計
第1製造部門費	¥186,000	¥409,200	¥297,600	¥111,600	¥1,004,400
第2製造部門費	¥187,200	¥374,400	¥249,600	¥124,800	¥936,000

→ 原価計算表「第1製造部門費」「第2製造部門費」

(借) 仕掛品	1,004,400	(貸) 第1製造部門費	1,004,400
(借) 仕掛品	936,000	(貸) 第2製造部門費	936,000

(13) 製造間接費の各原価部門への振り替え

(借) 第1製造部門費	743,500	(貸) 製造間接費	1,947,200
第2製造部門費	695,200		
A 補助部門費	296,000		
B 補助部門費	212,500		

(14) 補助部門の製造部門への配賦

問題指定の割合で配賦すると以下のとおり

	第1製造部門	第2製造部門
A 補助部門費	¥177,600	¥118,400
B 補助部門費	¥85,000	¥127,500

(借) 第1製造部門費	177,600	(貸) A 補助部門費	296,000
第2製造部門費	118,400		
(借) 第1製造部門費	85,000	(貸) B 補助部門費	212,500
第2製造部門費	127,500		

(15) 製造部門費配賦差異

貸借差額で計算

16. 製造部門費配賦際の計上

第1製造部門費の予定配賦額は¥476,000、実際発生額は¥479,400なので、部門費配賦差異は
 $¥476,000 - ¥479,400 = \Delta ¥3,400$ (不利差異)

(借) 製造部門費配賦差異 3,400 (貸) 第1製造部門費 3,400

第2製造部門費の予定配賦額は¥533,200、実際発生額は¥531,600なので、部門費配賦差異は
 $¥533,200 - ¥531,600 = ¥1,600$ (有利差異)

(借) 第2製造部門費 1,600 (貸) 製造部門費配賦差異 1,600

摘要	合計	第1製造部門	第2製造部門	A補助部門	B補助部門
部門費合計	1,013,800	238,200	255,600	240,000	280,000
A補助部門費	240,000	132,000	108,000		
B補助部門費	280,000	112,000	168,000		
作業くず評価額	2,800	2,800	—		
実際発生額	1,011,000	479,400	531,600		
予定配賦額	1,009,200	476,000	533,200		
部門費差異	(-) 1,800	(-) 3,400	(+) 1,600		

17. 補修指図書#202-R1→製造指図書#202への賦課

原価計算表より、補修指図書#202-R1は¥154,300

(借) 仕掛品 154,300 (貸) 仕掛品 154,300

→原価計算表「補修費」

製造指図書#201と#202が完成したので

$¥1,701,100 + ¥1,789,400 = ¥3,490,500$ を仕掛品から製品に振り替える。

(借) 製品 3,490,500 (貸) 仕掛品 3,490,500